

令和8年度 熊本県立大学 文学部フォーラム

Global Journeys through Music, Poetry and Words 音楽、詩、ことばをめぐる旅



他者を拒絶し、異質なものを切り捨てようとする閉塞感に社会がおおわれつつある。そんななか、パレスティナ、ブラジル、エチオピア、ドイツ、米国、日本……各地を回遊する三者が、あたかも風の便りを交わすように詩と対話を重ねてきた。

本パフォーマンスで試みられるのは、多言語の歌と詩を交錯させる、声の織物だ。遮断された境界を、声によって繋ぎ直していく。時空を移動する身体が捉えた断片的な光景と、多層的に交錯する声。それらは既存の場所を解体し、固定化された地図を書き換える。そして、混迷する世界のただなかに、自由な呼吸を可能にする重層的な異郷—ヘテロトピア—を鮮烈に立ち上げるだろう。

日時：2026年**11月 21日** (土)
13:00-16:00 (開場：12:30)

場所：熊本県立大学中ホール

参加費：無料 定員 200名(事前にご登録ください)

対象：高校生、本学学生、院生、県民及び一般の方

使用言語：日本語・英語

お問い合わせ先：リカード准教授 rickard@pu-kumamoto.ac.jp

 **熊本県立大学 文学部**
グローバル・スタディーズ学科
Prefectural University of Kumamoto

お申し込みはこちら
定員に達し次第×切

要予約



令和8年度 熊本県立大学 文学部フォーラム

Global Journeys through Music, Poetry and Words

音楽、詩、ことばをめぐる旅

Program:

プログラム

開会挨拶: 村尾 治彦 熊本県立大学教授・文学研究科長
司会: 原 紘子 熊本県立大学教授

12:30 Doors Open
13:00 Round Table: Life Journeys & Possibilities in a Changing World
14:00 Questions & Open Discussion
14:45 Break
15:00 Poetic Opera

・ 12:30 開場
・ 13:00 対談: 変化し続ける世界における人生の歩みと可能性について
・ 14:00 オープンディスカッション
14:45 (休憩)
・ 15:00 ポエティックオペラ

コメンテーター: Richard Lavin 熊本県立大学教授
閉会挨拶: 米谷 隆史 熊本県立大学教授・文学部長



川瀬慈 (文化人類学者) 岐阜県生まれ。立命館大学卒業後、京都大学大学院で博士号を取得し、国立民族学博物館に着任、2024年に教授就任。ハンブルク大学やミュンスター大学など各国で客員教授も務め、専門は映像人類学・アフリカ地域研究。エチオピアの楽師・吟遊詩人研究をもとに、詩や小説、映画、パフォーマンスなど分野を超えた創作を展開。制作した民族誌映画は各国の映画祭で上映され、2024年には民博創設50周年特別展「吟遊詩人の世界」を企画した。

Itsushi Kawase earned his PhD at Kyoto University. He is a professor at the National Museum of Ethnology. He has also held visiting professorships at institutions including the University of Hamburg and the University of Münster, and specializes in visual anthropology and African area studies. Drawing on his anthropological research into Ethiopian musicians, he creates work spanning poetry, novels, film, and performance across disciplinary boundaries. His ethnographic films have screened at festivals worldwide, and in 2024 he curated a special exhibition marking the museum's 50th anniversary.

松田美緒 (歌手) ポルトガル語など6か国語を操り、ファド、ブラジル、カーボ・ヴェルデ、ギリシャなど世界各地の歌を探求。2005年アルバム『アトランティカ』でデビュー。2014年『クレオール・ニッポン』では日本各地に残る歌を辿り、高い評価とギャラクシー賞などを受けた。近年はペルシャ音楽や仏教真言にも取り組み、2025年大阪・関西万博ではブラジル国歌を歌唱。国境を越え、歌にひそむ記憶と祈りを響かせ続けている。

Mio Matsuda speaks six languages, including Portuguese, and has explored song traditions from fado, Brazil, and Cape Verde to Greece. She made her major-label debut in 2005 with the album Atlântica. Her 2014 project Creole Nippon traced songs preserved across Japan, earning wide acclaim and a Galaxy Award. In recent years she has taken up Persian music and Buddhist mantras, and in 2025 she performed Brazil's national anthem at the Osaka-Kansai Expo. Crossing borders, she keeps giving voice to the memory and prayer held within song.



Itsushi Kawase
Anthropologist

川瀬慈 (かわせいいつし)
文化人類学 / アフリカ音楽研究

itsushikawase.com



Mio Matsuda
Musician

松田美緒 (まつだみお)
歌手

miomatsuda.com



Joshua Rickard
Anthropologist

ジョシュア・リカード
文化人類学 / パレスチナ問題研究

www.pu-kumamoto.ac.jp/researcher/joshua-rickard